

はじめに 002

くずし字のきほん 000

書の歴史 000

平仮名字母表 000

変体仮名一覧表 001

本書の特徴 001

誌面の見方 008

第1章 くずし字の法則を学ぼう

法則① 口や日などの省略 020

法則② 左縦画の消去 021

法則③ 囲みの省略 022

法則④ 外側から内側への省略 023

法則⑤ 横↓縦が縦↓横へ 024

法則⑥ 中心↓左↓右が左↓中心↓右へ 025

法則⑦ 縦画優先による流れや省略 026

法則⑧ 横画から上への戻し 027

法則⑨ コ+長い縦画のくずし 028

法則⑩ 隷書体をもとにくずされた草書 029

応用 「田」のくずしについて 030

第2章 禅語のくずし字を読もう

禅語① 松柏千年青 032

禅語② 寿如南山高 033

禅語③ 春水満四澤 034

禅語④ 山花開似錦 034

禅語⑤ 白雲起峰頂 038

禅語⑥ 行到水窮處 042

禅語⑦ 直透萬重関 045

禅語⑧ 壺中自有佳山水 046

禅語⑨ 採菊東籬下 046

禅語⑩ 只在目前尋無處 048

禅語⑪ 寶樹多華果 048

禅語⑫ 歲月不待人 049

挑戦しよう！ 禅語実践編

その① 008

その② 008

その③ 006

これも読んでみよう！ 009

第3章

和歌のくずし字を読もう

和歌①	新しき年のはじめの初春のゝ	092
和歌②	梅が枝になきてうつろふ鶯のゝ	097
和歌③	ときはなる松のみどりも春来ればゝ	102
和歌④	櫻花ちりぬる風のなごりにはゝ	107
和歌⑤	春日野におふる若菜を見てしよりゝ	112
和歌⑥	ほのかにぞ鳴き渡るなる時鳥ゝ	117
和歌⑦	わが宿の梢の夏になるときはゝ	122
和歌⑧	かぜ吹けば蓮のうき葉に玉こえてゝ	127
和歌⑨	秋の夜の露もくもらぬ月を見てゝ	132
和歌⑩	ゆふされば野邊の秋風身にしてみてゝ	137
和歌⑪	見渡せば花もみちもなかりけりゝ	142
和歌⑫	さびしさにたへたる人のまともあれなゝ	147
挑戦しよう！ 和歌実践編		
その①	151
その②	155

*本書は月刊『なごみ』連載「これで読める！くずし字道場」(2021年1月号〜2024年12月号)をもとに、加筆修正のうえまとめたものです。 *本書で取り上げた禅語の読み下しや語釈については、『充実 茶掛の禅語辞典』(有馬頼底監修、淡交社)を参考にしています。

くずし字のきほん



序章

くずし字読解に入る前の準備として、この章では「くずし字のきほん」をかんたんに押さえます。これまでどのような書体があったのか。「くずし字」とはどのようにして成り立っていったのか。それらを知っておくことは、読解に役立ちます。本書の特徴とあわせて学んでおきましょう。